

2014年4月14日

“Man を出さしめよ”

- 地球社会共生学部（設置構想中） -

学長 仙波 憲一

今日の青山学院の校風、青山ブランドを形成するもとなったルーツは何でしょうか。

その起源は本学第二代院長で日本人初の院長である本多庸一先生が、青山学院が育てる人間について語った“希くは神の恵みにより、我輩の学校より所謂 Man を出さしめよ”という言葉にたどり着きます。ここでいう“Man”とは、2つの資質を合わせ持った人間のことです。一つは、『きわめて誠実であるということ』、すなわち至誠 Sincerity です。もう一つは、『飾りがなくまじめであること』、すなわち質直 Simplicity です。至誠(Sincerity)と質直(Simplicity)を兼ね備えた人物こそ青山学院が育てる人間であり、この方針は本学のスクールモットーである「地の塩、世の光」へと繋がり、本学の根幹をなす教育理念です。以来、Man を育成するために、教養教育、語学教育、そして女子教育を3つの柱とし、土台にキリスト教信仰を据え、授業科目を英語で行い、幅広い視野を身に付けさせる国際的教育が形成されました。これが今日の青山学院の校風、青山らしさ、青山ブランドを形成する教育の根源なのです。

今年青山学院は創立140周年を、また大学は開設65周年になります。本学のような、プロテスタント・メソジスト派の学校では、学問を追究すると共に他者への配慮、他を尊重することができる愛情を持つ人間を教育します。知識偏重型の教育は目指しません。これがキリスト教信仰に基づく本学の使命であると考えます。

周年を迎えるにあたって、本学の研究教育機関としての原点を見つめなおし、建学の精神を再確認して、来たるべき社会の構築と発展に寄与できる Man を育成するために、新たに教育研究分野を設置することといたしました。それが『地球社会共生学部』(School of Global Studies and Collaboration)です。

未来を見据えたとき、人類が共存共栄する来たるべき社会は国際社会を超えた地球社会であり、その社会を持続的に発展させるには我々一人一人が相互に尊重し合う共生の心が不可欠です。地球社会を理解し、けん引できる若き人材をいち早く育成することが本学の使命であると考えます。それは、『地球規模の視野をもち、他を尊重し、地球社会が抱える諸問題を解決するために主体的に世界の人と共に働き、地球市民として積極的に社会への責任を果たし社会の発展に貢献できる至誠と質直を兼ね備えた人間』です。

この為に、6か月間のフィールドワーク型の海外留学プログラムを必修とし共生マインドを実感させ、知識として社会共生を理解させるために4領域を配置します。4領域は、世界を知る・知らせる『メディア／空間情報領域』、社会学を基本に地球社会を分析理解する『ソシオロジー領域』、世界の他者と協力し連携する『コラボレーション領域』、世界と協働し共有できる経済価値を共創する『ビジネス領域』からなっています。学生は成長に応じて領域を選択横断して学べるシステムを整えています。

理論学習と海外での体験学習から得る、知恵と力を習得する知識を有機的に身に付けさせ、地球規模の諸課題を定義から掘り起こし、解決策を社会科学の視点から主体的に考え、行動する学生を育成します。